

M. A. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

以前、本学の留学プログラムの1つのイギリス研修プログラムに参加し、1か月の短期留学を経験しました。その留学が終わったとき、自身の語学力をより磨きたいという思いが湧き、それがきっかけで長期留学を考えるようになりました。ドイツ留学に興味があったため、協定留学を目指すことにしました。協定留学は単位変換が可能で、休学をしなくてもいいという点に魅力を感じ出願しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は IELTS のスコアで出願しようと思っていたため、IELTS 対策をしていました。市販のテキストを購入して勉強したり、IELTS 対策講座に出席したりしました。あとは大学の課題などをして普段から英語に触れるようにしていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学のため、ドイツ語勉強に時間をかけました。本学でもドイツ語の授業は取っていましたが、さらにドイツ語力を上げる必要があったため、ドイツ語のラジオなども用いてドイツ語に耳が慣れる練習をしました。単語力を上げるためにはドイツ語の映画を見たりしました。ドイツへ留学に行く際、日本で事前にビザを取得することも可能ですが、時間がかかるということと日本でなくても現地でビザ申請の手続きはできるため、必要な書類を揃えていました。

④ 現地到着後

空港からの移動手段：空港までは現地大学のチューターが迎えに来てくれて、一緒に寮やアパートへ行ってくれます。チューターは学生なので話しやすく、留学中も相談に乗ってくれたりしてとても親切にしていただけました。私は寮ではなくアパートに入居を決めていました。私のアパートは大学から徒歩 10 分圏内で立地は良く、新築だったため快適に過ごせました。

オリエンテーション：オリエンテーション期間は2週間あります。2週間目に無料のドイツ語授業があります。留学する前に HSD（デュッセルドルフ専門大学）から、オンラインでドイツ語のレベルチェックテストをするようにと指示があります。その結果を元にレベル分けされて、自分に合ったクラスに振り分けられます。最終テストなどはないため欠席する留学生もいましたが、友達を作るいい機会なので出席することをお勧めします。

諸手続き：ドイツでは入国してから2週間以内に住民登録をしないといけないため、早めに行動する方がいいと思います。オリエンテーション期間中に、学生証を発行してもらうために保険の書類などを確認してもらいます。学生証には交通機関の定期も含まれており、デュッセルドルフを含むノルトライン＝ヴェストファーレン州で乗り放題のためとても便利でした。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

正規科目などの授業と同じ大学内の建物で開講していました。

◆ 授業内容、課題、試験

1週間無料のドイツ語クラスがあります。テストはありませんが、クラスによって課題はありました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

全て建て直したあとだったため、近代的な建物でした。現地の学生と同じ建物で授業を受けるので、常にドイツ語や英語に囲まれている環境で楽しかったです。

◆ 履修科目

オリエンテーション期間中に学部ごとに科目説明や履修方法を教えてもらいます。

・ Life Coaching

心理学の授業で Coaching について学びます。留学生と共に現地の学生も参加しています。授業を履修するまで Coaching の知識がなかった私にはとてもレベルの高い授業でした。教授がアメリカ人で英語のスピードが速いので、毎回授業に付いて行くことに必死でした。

・ International Team Working Skills

1週間の集中講座で朝から夕方までの長い授業です。現地の学生も参加しています。この授業では、インターナショナルなチームで円滑に作業を進める上で何が大切かなどをグループでディスカッションし、絵を描いてそれぞれの国の特徴を知っていくということをしました。アジア人が私1人だけでした。日本の文化が珍しかったみたいで、クラスの人たちが興味を示してくれたので嬉しく感じました。また、誤った情報を伝えないようにという責任感もありました。様々な国の文化を知ることができるいい機会でした。集中講座なので疲れますが、一番楽しかった授業です。

・ German Language class

この授業は留学生のために開講されています。主に文法、Reading を通してドイツの文化を知っていくスタイルでした。私のクラスは少人数だったので、発言しやすく楽しんでドイツ語を学べます。

◆ 授業、レポート、定期試験

・ Life Coaching

出席点はなく、最終レポートがあります。Coaching に関する自分の興味のあるテーマを自分で選べます。最初5~8ページの範囲でいいと言われていたのですが、最終的には8ページで提出となりややこしかったです。

・ International Team Working Skills

最終レポートがあります。出席点はなしです。

・ German Language class

この授業は出席率が 80% 必要です。小テストはありませんが最終テストがあります。Reading、Grammar、Speaking です。そこまで難しくありませんでした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

大学のクラブに所属はしませんでした。その代わりに、日本に興味のあるドイツ人と交流できる Stammtisch に行っていました。そこではドイツ人はもちろん、日本の他の大学から留学に来ている人とも出会え、交流の幅が広がりました。また、HSD 内のドイツ語の授業は私が想像していたものより少なく、物足りない内容でした。私はもっとドイツ語力を身に付けたいと思い、Volkshochschule というドイツ語の語学学校に通いました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私の住まいはアパートでした。寮は家賃が安いので寮がよかったのですが、本学で留学出願している間にドイツでの寮の申し込み期間が終わってしまったため、学生アパートになりました。家賃が寮の 2 倍以上でした。新築で静かなアパートでした。住人にもたまに会う程度で生活感をあまり感じず、最初は静かすぎて怖かったです。最後は 1 人の気楽さを知ってしまったので、快適でした。大学までも近い、大型スーパーや dm というドラッグストアのようなお店もすぐ近くなので便利でした。

食事は基本自炊をしました。幸いデュッセルドルフは日本人が多いこともあり、日本食、アジアショップが多かったので調味料などは高いですが揃います。普通のスーパーでも大体日本に近い品物が揃います。日本が恋しくなったときは日本食を食べてパワーを付けていました。また、私はお米が好きなのでほぼ毎日食べていました。食事の面では問題ないと思います。

⑨ 長期休暇の過ごし方

1 セメスターだけでしたので長期休暇はありませんでしたが、大学が週に 3 回しかなかったため、国内外へ旅行に行きました。バスを使って隣国へアクセスできる点がヨーロッパの魅力です。また、学生証に付いている定期が本当に便利でフル活用することをお勧めします。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

日本に帰国するときには就職活動が始まることが分かっていたため、できる範囲で企業研究や自己 PR、自己分析をしていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは本当に多くて選ぶことが難しいです。普段の生活での何気ない瞬間が楽しかったです。友達 6 人でベルギーのブルージュへ行った際、できるだけ低コストで旅行するために電車・バスを乗り継いだバタバタの旅行が一番思い出に残っています。最初の方に行ったので、上手くコミュニケーションが取れなくモヤモヤしたりしましたが、それもいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

最も苦勞したことはビザの申請です。ドイツで学生ビザを取得する際、必要な書類の 1 つに残高証明書があります。これは、閉鎖口座を開設した際に発行してもらうのですが、同じ銀行でも閉鎖口座開設手続きができる支店とそうでない支店があり、いくつも銀行を巡りました。そのことで手間取って、ビザ申請の予約をしに行ったのは 11 月中旬でした。やっとビザ申請のための予約ができたと思ったら、ビザ取得の手続きは 5 月と言われました。私は 2 月に帰国すると言っても日時は変更できませんでした。結局ビザを取得することができませんでした。それでは困るのでなんとか食い下がってやっと仮ビザというものを発行してもらったのですが、ドイツから出国可能ですが、再入国はできないという不便なものでした。その手続きも複雑で担当者によって対応が全く違うため苦勞しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

喫煙率の高さには驚きました。街中では歩きタバコは当たり前のように行われていました。そのためショッピングから帰ってくると、髪の毛や服にまでタバコの匂いが染みついてしまっていて困りました。その一方で、デュッセルドルフのレストランはほぼ禁煙です。日本よりもレストランにいるときは快適でした。また、公園などに行くと家族で遊びに来ている、クリスマスは家族と過ごすなど、家族を大切にしている様子を見るとほっこりした気持ちになりました。人に対してとても思いやりを持っている人が多いように感じます。外国人の私にも丁寧に対応してくれ、優しい人が多く魅力的な国だなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点

インターナショナルオフィスのサポートが手厚かったです。手続きのことなどで分からないときもアドバイスをくれました。

留学生が多いので、イベントなど開催されることが多く交流を深めるいい機会がありました。

悪かった点

私の所属した Faculty of Social Sciences and Cultural Studies では英語で開講される授業が少ないことです。短期集中講座が多く、15 週開講の授業が少ない気がします。また、ドイツ語で開講されている授業が少なかったです。ドイツ語も学びたかったので物足りなかったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持って行った方がいいです。レポート提出などもあるので自分の使い慣れているものの方がいいかと思います。常備薬と風邪薬も役に立ちました。体調を崩したときのために体温計は必要です。

食料について、お米などは現地で買えます。ふりかけや茶葉などは高価なので持って行った

方がいいと思います。ラップは日本製が断然いいです。アパートでは退去手続きのときに部屋の最終チェックがあります。ドイツは硬水のため水回りがカルキで白くなるので、100均などの掃除グッズが約に立ちました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

現地の人や留学生に自分から積極的に話しに行くようになりました。留学前はちょっとでも文法のミスがあったら恥ずかしいので、話しかけられるのを待ってしまっていたが、自分からコミュニケーションを取ることの重要性を学びました。ドイツ語も日常会話ができるようになり、店員さんと話すときはドイツ語で会話できるようになり、それがとても嬉しかったです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もし、今留学をするか迷っているのなら、挑戦してみた方がいいと思います。留学を通して語学だけではなく、自分を改めて知ることができます。私は日本では自宅通学で、1人暮らしを経験したことはありませんでした。ドイツではルームメイトできえ同じ大学の友達がない生活に、最初はすぐに帰りたいと涙がでました。しかし、1つ1つの手続きをやり終えていく中で、物事に対して粘り強く関わる力が付きました。やればできるという自信を付けるいい経験ができました。留学から得るものは多いです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学で英語・ドイツ語に触れることができ、外国語の楽しさを改めて知りました。自分の仕事でも何か外国語を使うことのできる職に就きたいと思っています。そして、将来は自然も多く人にも優しいドイツへ移住したいと考えています。

V. 写真



デュッセルドルフのアルトシュタットの風景です。

この場所で友達とよく話していました。土日には多くの人がビール片手に楽しそうに団欒している様子を見かけました。



ドイツの冬の名物、クリスマスマーケットです。この写真はデュッセルドルフではなく、ケルンのクリスマスマーケットの様子です。ドイツのいたる都市でクリスマスマーケットは開かれます。色々な都市に行って、それぞれの地域の名物などを食べたり、見たりできたことはいい思い出です。



最後に撮った International Team Working Skills のメンバーで撮った写真です。各々の国の文化を知りたいいい機会でした。